

第1回岡山市場未来会議（令和6年度）
議事要旨

日時：令和6年7月19日（金）13:30～15:15

場所：岡山市役所本庁舎 3階 第3会議室

出席者：

【委員】

学識経験者	2名
卸売業者	5名
仲卸業者	4名
場内関係者	1名
出荷団体	2名
小売事業者	1名
金融事業者	1名
消費者	2名
岡山市	1名

【オブザーバー】

農林水産省中国四国農政局	1名
--------------	----

【事務局】

岡山市 市場事業部
三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

欠席者：

【委員】

学識経験者	1名（文書による意見提出）
-------	---------------

議事要旨：

(1) 未来会議の位置づけについて

事務局 現在、岡山市卸売市場経営戦略に則って事業を推進している。未来会議の議論によってこれまでの経営戦略を見直すことは想定されるが、従前の経営戦略を廃止したり、新たな計画を作ったりすることは考えていない。

(2) 現状の課題、これからの市場の考え方について

■ 立地特性について

発言者 A 当地は環状道路が整備され、交通環境も変化してきている。岡山市場が扱っている出荷品がどこからどのようなルートで来ているのかについて、整理してほしい。

発言者 B 現在の市場周辺は地盤が軟弱である。災害が発生したときにも安定的に事業を継続できるようにするためには、盤石な地盤が必要ではないか。

■ 集荷品・出荷品と販路について

発言者 C 岡山市場は全国からの集荷と地域内への分荷を行う消費地卸売市場としての性格が強い。GMS（総合スーパー）のみならず、地方資本企業の量販店の調達動向を把握し、戦略と展望を考える必要がある。

発言者 D 荷物が集まる仕組みを検討する必要がある。岡山市場に出すと高く売ってくれると評価されることが重要ではないか。

発言者 E 岡山市場は地場製品の取り扱い割合が他市場と比較しても低い。地場製品のシェアを高めていけるような工夫が必要ではないか。

■ 生産環境の変化について

発言者 F 魚の漁獲量は20年間で半減している。豊かな海を復活させて、漁獲量を増やすことを目指している。

発言者 G 令和2年12月に成立した改正漁業法で漁業権を一般企業にも付与できるようになったことは、入荷量が増えるなど、事態打開の鍵になると思われる。

発言者 H 生産コストの上昇に伴う野菜や果物への転作や、生産者の高齢化等により、生産量の減少が著しい。

発言者 I プロダクトアウトからマーケットインに発想を広げ、売れるものを産地に薦めて、作ってもらうということもぜひ取り組んでほしい。

■ 消費をめぐる環境の変化について

発言者 J 消費者の水産物の購入先が量販スーパーにシフトしたことで、町の鮮魚店や小売業者の減少が著しい。

発言者 H 花きは、近年のライフスタイルの変化によって需要が減少している。今後新たな需要の掘り起こしが必要であると考えている。

発言者 E 以前はぶりや海老、赤貝、アナゴ、鱈などの祝いの魚を買いそろえて各家庭でばら寿司をつくる文化が岡山にはあったが、最近ではそういった話を聞かなくなった。

発言者 K 食文化を守る取組が、市場とも連携して継続的に行われる仕組みが重要ではないか。

■ 担い手不足について

発言者 L 市場として場内事業者の事業に魅力がない。仲卸ではもう 2、30 年新しい人が入っていない。

■ 市場の付加価値について

発言者 L 気軽に市民・県民が立ち寄って、市場に魅力を感じてもらえるような商業施設の併設も検討すべきではないか。

発言者 M 市場自体をよりオープンにし、一般消費者をいかに呼び込むか、美味しさを知ってもらいいかにリピーターになってもらうかという、プラスアルファの機能が重要であると考えている。

■ E C（電子商取引）への取組について

発言者 G 水産物の卸売経由率は 5 年連続で低下している反面、ネットスーパーのマーケットが急拡大している。

発言者 C 現在実施している市場内の会社に現状の課題等を伺うことも必要ではないか。

■ 地場産品のブランド化について

発言者 I 海外への輸出や首都圏・関西圏、大市場への出荷により、ブランド化をさらに進めることが重要である。

発言者 N 少量多品種という岡山の漁業の特徴を生かし、少量でもブランド化を進めることが重要ではないか。

■ 地域の観光資源との連携について

発言者 O 京都の市場では、近くのホテルと連携して、ホテルから歩いて市場の中を見えるようにしているなど、地域との連携の視点も取り入れている。

■ 市場の機能強化、先進技術の導入について

発言者 I 豊洲市場では売り場全体が常に低温になっていることで、他の市場と比べて品質の持ちが良いと聞いている。コールドチェーンの充実を進めていただきたい。

発言者 D 生産性、効率性、収益性の向上が重要である。D X なども含めた検討が必要ではないか。

発言者 I 物流問題に関連して、産地の荷物の積みこむ時間の短縮と同時に、市場で下ろす時間の短縮が必要ではないか。休み明けなどはトラックが荷物を下ろすのを待つ時間が長くなる市場も多い。

■ 事業手法について

発言者 D 再整備等の際の入場事業者の負担軽減が重要である。P F I や P P P といった民間活力を導入し、賃料が上がらない仕組みを検討する必要があるのではないか。

■ 今後の検討方針

発言者 K 岡山市場に絶対に必要なもの、市場としての機能を強化するために付け加えるべきもの、プラスアルファの価値として導入を検討するものそれぞれのレベル感を意識して議論が必要である。昨今、物価や人件費の高騰が著しい。必要性のレベルを見極めながら、議論する必要があるのではないか。

発言者 K 市場事業管理者を含め、役割分担をしっかりと議論すべきであるという点である。トラックの入退場や荷下ろし時の滞留、D X の推進など、誰が責任を持つのか、適切な分担を検討すべきである。

以上